

## クラックスケールと記録用アプリを開発し 工損調査トータルサポートサービス事業を展開

大分県別府市で、工損調査や物件補償、補償コンサルタント等の事業を行う。特に工損調査において、従来複数人で行っていた撮影や記録等の作業を1人でも短時間でできることを実現する、貼り・剥がし可能なクラックスケールと記録用アプリを独自で開発し、作業効率化を実現。さらに、これらを活用したトータルサポートサービスの事業展開を図ることで、工損調査に係る業界全体の生産性革命や女性活躍推進に取り組んでいる。

所在地 大分県別府市石垣東10丁目5-45  
日興パレスグランテージ別府208

電話/FAX 0977-25-8671 / 0997-25-8672

URL <https://zero-space.co.jp/>

代表者 代表取締役 大野 博明

設立 1991年

資本金 2,500万円

従業員数 4人



### 工損調査のデジタル化による業界革命

同社は、公共工事による建物への影響調査を行う工損調査を独自で開発したアプリ等を活用してデジタル化し、生産性を大幅に向上させるトータルサポートサービス「調査員ぶらす」を開発・展開している。工損調査を行う事業所は当サービスを活用することで、より多くの調査を受注することが可能となる。調査員の高齢化や人手不足が深刻となっており、効率化も進んでいない補償コンサル業界を改革する、社会的イノベーションを進めている。



調査員ぶらす

### 作業の効率化による負担軽減で女性・高齢者の活躍を推進

工損調査は従来、重たい用具や荷物が必要で、かつ長時間にわたる作業が必要となることから、女性や高齢者には向かない作業であったが、当社の「調査員ぶらす」はタブレットによる撮影により、必要情報や紙媒体資料の電子化・クラウド化を図り、作業時間の大幅短縮も実現したため、男性でなくても可能な作業となった。特に、女性進出については当社も注力しており、女性のみで調査を行うグループ「チーム亀裂調査レディス」の構築を行うなど、業界を大きく改革している。



タブレットによる撮影

### 産学官連携等でのオープンイノベーションの推進

同社では工損調査業において他社では例の少ない、技術開発投資に取り組む企業である。「調査員ぶらす」は大分大学理工学部等との連携により進められたものであり、共同開発を進めることで、クラック（建物のひび）を自動で認識するシャッター機能や、この長さや幅の自動測定機能の追加等、技術のさらなる向上を目指している。当社の現場経験から生まれたニーズや知見と、大学の技術、さらには行政等からの助言を有機的に結びつけ、実現性と事業性の高い開発を続けている。



自動認識シャッター機能